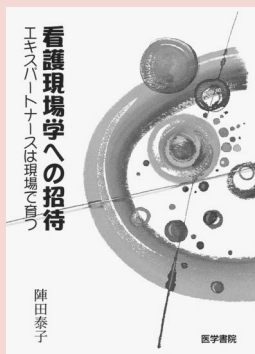


（「現場」が紡ぎ出す 看護へのあふれる思い）



看護現場学への招待 エキスパートナースは現場で育つ

陣田泰子 著 B6判・216ページ
定価 1890 円(本体 1800 円+税 5 %) ISBN 4-260-00256-2 医学書院 2006

評者

井上智子

東京医科歯科大学大学院
保健衛生学研究科

「圧倒的に強い立場にいる人間が、圧倒的な弱者を言葉や態度で殺すことができるということがよく理解できました。」言葉はさらに続く。「逆に、心のこもった励ましの言葉が生きる力や気力を与えてくれることも。」

これは本書の著者が、ALS 患者やその夫との交流のなかで受け取った手紙の一節である。厳しすぎるほどの本音は、読む者の胸を打つ。ましてや看護師であるならば、自ら経験してきたいくつの場面がよみがえり、もてあますほどの思いに翻弄されてしまう。それでも臨床看護の道を歩き続け、歩き抜いた人にこそ感じ取れる、人生の境地が用意されているという。その境地にたどり着いた人々は、くぐり抜けてきた幾多の修羅場や苛酷な状況などみじんも感じさせない穏やかな微笑みをたたえている。ちょうど著者である陣田泰子さんのように。

豊富な臨床経験の意味と、それを他者に伝えるすべをもとめて

「看護現場学への招待」と銘打たれた本書は、その陣田さんが、看護師人生の集大成であり使命とも感じる「現場でなされている看護の明確化」のために書き下ろした渾身の一作である。

その発端はこうだ。著者は二十数年の豊富な臨床経験をもって看護教員となったが、教育現場では「その長さのなかで何をやってきたのか、その意味は何か。それを相手に伝えられるのか」という問いを突きつけられた(ように感じた)。しかし、答えが見いだせず、それを見つけるために再び現場に戻ったという。確かに経験すること、それを明確にして意味づけること、そしてそれを他者に伝えることは、まったく別ものである。そしてひとりの人生のなかでこれをやり遂げること、いや、そもそもそれに気づくこと自体が希有であり、挑む課題はとてつもなく大きい。それでも成し遂げずにいられなかったのは、臨床経験のなかで培われた体験や思いに突き動かされたからであろう。ちょうど冒頭に示した手紙のなかのことばのような。

現場にこだわって看護の理論と実践を概念化した書

こうして本書はできあがった。たどる道筋は、著者の看護の原点(第1章)であり、看護現場学をどのように創造していったのか(第2章)、それらをどのように概念化していったのか(第3章)であるが、紡がれている言葉は日常的であり、優しさにあふれている。

読み終えて感じる。これは集大成ではない、まだまだ続編がある、著者の挑戦は終わっていない、と。

■ご購入は、最寄の医書専門店または医学書院販売部 電話(03)3817-5657(直通)まで。
ホームページ(<http://www.igaku-shoin.co.jp>)からもお申し込みいただけます。